令和８年９年２５日

令和８年度　学校関係者評価委員会報告書

学校法人郷学舎
アルスコンピュータ専門学校
学校関係者評価委員会

自己点検評価委員会が作成した令和７年度自己点検・評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会を実施しました。令和８年度学校関係者評価委員会について、下記のとおり報告します。

記

1. 開催日時
令和８年８月２６日（水）　１４：３０～１６：４０

2. 場所
アルスコンピュータ専門学校　１０１教室

3. 学校関係者評価委員

【関連業界関係者】
① 栗原　良太　氏（熊谷商工会議所　会頭）
② 大島　匡　　氏（医療法人社団おおしま会　くぼじまクリニック事務長）
③ 佐々木 喜興 氏（株式会社シーキューブソフト　代表取締役）
④ 朱　　力敏　氏（ソホビービー株式会社　代表取締役）

【教育関係者】
⑤ 新井　秀明　氏（ビジネス教育実践学会 副会長）

【地域代表】
⑥ 中村　雅俊　氏（一般社団法人さいしんコラボ産学官　専務理事）

【保護者代表】
⑦ 野口　和江　氏（在校生保護者）

【卒業生代表】
⑧ 栗原　謙一　氏（第５期卒業生）

【事務局（学校側)】

① 新井　公一　（学校法人郷学舎 理事長）
② 山田　典男　（アルスコンピュータ専門学校 校長）
③ 正田　淳一　（　〃　副校長）
④ 長瀬　あゆみ（　〃　教務部課長 情報ビジネス科学科長）
⑤ 吉橋　大樹　（　〃　教務部主任 情報システム科学科長）
⑥ 小関　士朗　（　〃　教務部主任 高度情報ﾃﾞｻﾞｲﾝ科/AI ｼｽﾃﾑ科学科長）
⑦ 篭原　智恵　（　〃　教務部特務 保健・医療ビジネスコース担当）
⑧ 戸川　千詠子（　〃　教務部特務 国際 IT ビジネスコース担当）
⑨ 田口　紀子　（　〃　総務部係長）

4. 学校関係者評価委員会　次第

１．開会
２．委員紹介
３．理事長挨拶
４．校長挨拶
５．委員長の選出
６．協議【新井委員長により議事の進行が行われた】
①学校教育法改正と第三者評価の受審について【学校側より説明】
②学校関係者評価委員会について【学校側より説明】
③学校運営の PDCA サイクルについて【学校側より説明】
④学校概要と近況報告【学校側より説明】
⑤令和７年度自己点検評価について【学校側より説明】
⑥令和７年度重点目標の達成状況報告【学校側より説明】
⑦令和７年度自己点検評価結果の説明【学校側より説明】
⑧令和８年度重点目標について【学校側より説明】
⑨意見聴取
⑩その他
７．閉会

5. 学校関係者評価委員会報告

～各項目に関する学校関係者評価委員の評価・意見～

重点目標①：教職員の DX スキル強化を推進し、生成 AI や IT ツール活用による教育改善と業務効率化を図る。

- 情報技術の分野では AI の進展が著しく、これまで学んできた知識や技術だけでは対応が難しい時代になりつつあります。今後は知識の習得だけではなく、課題を発見し、解決策を考え、チームで協力しながら取り組む力がより重要になると考えています。
- AI を活用する時代だからこそ、人間には問題解決能力や協働する力が求められており、そのような力を育成する教育が必要であると感じています。
- AI 技術の急速な発展により、近い将来には人間の知能を超える可能性があると言われています。そのような時代を生きる現在の学生たちには、専門知識や技術だけではなく、人間としての在り方を考える力がこれまで以上に求められるのではないかと感じています。
- AI 技術が今後どのように発展していくのかは予測が難しい状況ですが、近年は専門家の業務を補完・代替する存在として活用が進んでいます。一方で、AI が誤った情報や事実ではない内容を生成する事例も見られ、その情報をどのように判断し活用するかが重要になっています。また、自動運転技術のように、技術の進歩に伴って責任の所在が問われる場面も増えています。AI を活用したシステムについても、最終的にはそのシステムを開発し、運用し、社会に提供する人間が責任を負うべきであると考えています。
- AI の進展によって社会の仕組みや価値創造の方法が大きく変化する中で、これまで以上に物事の本質を考える力が重要になると感じています。何が正しいのか、何が社会にとって望ましいのか、人間としてどのように行動すべきなのかといった本質的な問いについて考える力は、AI には代替できない人間の重要な役割であると思います。
- 今後は、社会の本質、人間の本質、そして物事のあるべき姿について深く考えられる人材が、社会のリーダーとして求められるようになるのではないかと考えています。
- IT 業界では AI 技術の進展が著しく、プログラムの作成やテストなど、これまで技術者が担ってきた業務の一部を AI が高度なレベルで実施できるようになっています。その変化の大きさを実感する一方で、社会全体がこれまで経験したことのない課題に直面しており、誰も正解を持たない状況の中で新たな価値を創造していくことが求められていると感じています。
- 近年は AI の進化により、企業の採用においても求める人材像が変化していると感じています。以前は「新卒不要論」といった意見も見られましたが、現在は思考力を持ち、AI を活用しながら課題解決に取り組むことができる人材への期待が高まっており、企業においてもそのような人材が重要な戦力として求められています。
- AI は効率的な支援ツールとして活用できますが、それを使いこなすためには自ら考え

る力が必要です。今後は専門知識だけでなく、思考力や課題解決力を持った人材の育成がますます重要になると感じています。

重点目標②：多様性の相互理解と国際交流活動を推進し、新たな価値を創造する力と協働力の育成を図る。

- 留学生教育が大きなテーマとして取り上げられており、少子高齢化が進む社会に対応した重要な取組であると感じました。
- 実際にインターンシップで受け入れた留学生についても、日本語でのコミュニケーションは非常に円滑であり、説明や受け答えにも大きな問題は感じませんでした。一方で、業務内容の理解や指示内容の解釈については、確認が必要な場面も見受けられました。
- 今後、企業側も留学生の特性を理解しながら支援していくことが重要であり、学校が進めている留学生教育について高く評価しています。

【項目 1】教育理念・目的・目標

- 多様な分野の人々と連携しながら学ぶ取り組みについて紹介がありましたが、これからの時代においては、異なる立場や専門性を持つ人々と協働する力が非常に重要になると思います。そのため、学生が在学中にさまざまな人や企業、地域との関わりを通じて多様な経験を積み、自ら考え行動する機会を数多く持てるような教育環境を整えていただきたいと考えています。そうした経験は、学生一人ひとりの将来にとって大変有意義なものになると思います。
- 教育理念のところで印象深いのは、日本の言葉で言うと「不益流行」の意味合いが込められていると感じました。やはり教育理念や目標、目的などは変わることのない部分を大切にしながらも、時代の変化に対応した取組を進めていることがよく伝わってきました。
- 学校教育だけでなく企業経営においても同様ですが、理念や目的は継承しながら、社会の変化に応じて新しい取組を進めていくことが重要であると感じています。その姿勢が今回の評価内容にも表れていると感じました。
- かつて勤務校の生徒が御校へ進学し、その後情報分野の企業へ就職して活躍していることを大変うれしく感じています。先日、卒業生との交流の機会がありましたが、当時学んだ技術や知識そのものは時代とともに変化しているものの、御校で身につけた基礎的な知識や考え方が現在の仕事にも生かされているとの話を聞くことができました。その様子から、御校が時代の変化に左右されない本質的な学びを大切にしながら人材育成を行っていることを実感しました。
- 評価項目の中にある「自主的な学習の促進に対する支援」については、学生の成長を支える上で非常に重要な取組であると考えています。
- 評価表に掲げられている「成長が実感できる学校」という考え方は、大変重要であ

ると感じています。

- 学生自身が学びや経験を通じて成長を実感できることは、学習意欲の向上や自己肯定感の醸成にもつながると考えています。
- 若い頃に哲学や古典に触れ、友人同士で議論した経験が、自身の価値観や物事の善悪を考えるきっかけになったと感じています。
- 学生たちに答えを教えるのではなく、「何が正しいのか」「人としてどのように生きるべきか」を問い続ける姿勢の大切さを伝える機会があればよいのではないかと思います。
- 専門知識や資格取得だけでなく、人間としての倫理観や判断力、人間らしい知恵を育む教育も重要であると考えています。
- 世界ではさまざまな紛争や社会課題が発生していますが、その背景には人間の価値観や欲求が大きく関係しているように感じます。
- 社会が大きく変化する時代だからこそ、学生たちには専門分野の学びに加え、物事を多面的に考え、自ら問いを持ちながら生きていく力を養っていただきたいと思います。そうした人間性や倫理観を育む教育についても大切にしながら、人材育成に取り組んでいただくことを期待しています。
- このような時代だからこそ、学校が掲げる教育理念を大切にしながら、一貫した姿勢で人材育成に取り組むことが重要であると感じています。
- 知識や技術の習得だけではなく、物事の本質を考え、自ら判断し行動できる人材を育成するという教育の役割は、今後ますます重要になると思います。
- 社会には「損と得」や「善と悪」といった様々な価値観が存在しますが、多様性が求められる現代においてこそ、人として何が正しいのか、何が望ましいのかを考え続けることが重要であると思います。

【項目 2】教育課程、教育の実施、学修成果

- 高等学校においても次期学習指導要領の改訂に向けた議論が進められており、多様性への対応や教科横断的な学びの重要性が重視されています。そのような中で、本校が学科横断型の取組を検討・推進していることは、先進的な取組であると感じました。今後、取組がさらに進展した際には、その成果や実践事例についてもぜひお聞かせいただきたいと思います。
- これまで多くの卒業生を採用しており、現在では管理職や主任、副主任など組織の中核を担う人材として活躍している卒業生も数多くいます。また、実習生の受入れも継続して行っており、実習をきっかけに就職へつながるケースも多くあります。また、御校の卒業生は離職する方が少なく、多くの卒業生が長期間にわたり勤務されております。御校の卒業生は当グループにとって欠かせない存在であり、今後も引き続き連携を深めていきたいと考えています。
- 当院においても医療 DX を推進しており、ここ数年で電子カルテ化を進めています。

透析部門などの特殊な運用もあるため段階的な導入となっていますが、現在は全体の半数程度まで電子カルテ化が進んでいます。今後さらに医療分野のデジタル化が進むことが予想されるため、御校においても医療分野を支える人材の育成に引き続き力を入れていただくことを期待しています。

- 在校生の娘が 2 年生となり就職活動を進める中で、面接で不採用になるなど苦労する場面もあり、本人も就職できるのか不安を感じていました。しかし、先生方が親身に相談に乗ってくださり、卒業生の話を聞く機会を設けるなど丁寧な支援を行っていただいたことで、夏休み前に就職先を決定することができました。就職決定後は、今度は社会人として働いていけるのかという新たな不安もあるようですが、その点についても本人と話しながら見守っています。
- 放課後に友人と絵を描く活動の場を設けるなど、学習面だけでなく学生生活を充実させるための配慮がなされていることを評価しています。また、教員に対する不満を話すことはほとんどなく、むしろ先生方の様子や日頃の関わりについて前向きな話を家庭でしてくれることからも、良好な関係の中で学校生活を送ることができていると感じています。
- 卒業まで残り半年ほどとなりますが、引き続きご指導をお願いしたいと思います。学校生活を楽しく送ることができていることを保護者として大変安心しています。

【項目 3】学生の受入れ学生支援

- 医療・介護の現場では依然として人材不足が大きな課題となっています。地域医療や福祉を支える人材の育成は今後ますます重要になるため、引き続き教育内容の充実にも力を入れていただきたいと思います。
- 日本全体で労働人口の減少が進む中、今後は外国人材の活躍がますます重要になると考えています。そのため、留学生の受入れと教育は非常に意義のある取組であり、今後も積極的に推進していただきたいと思います。留学生が安心して学び、卒業後も日本社会で活躍できるよう支援することは、日本における留学生受入れの評価向上にもつながるものと考えています。

【項目 4】教育実施組織・教員

- 今回の評価内容では、教職員の育成や研修に関する取組が充実していることが印象に残りました。
- 企業経営の立場から見ても、人材育成を継続しない組織に将来の発展はないと考えています。教育の成果はすぐに現れるものではありませんが、継続して取り組むことが重要です。また、専門的な技術や知識を持つ講師であっても、教育指導に関する課題が生じることはあると思います。そのような課題を把握し、改善に向けて取り組まれていること自体が大きな成果であり、今後につながる取組であると感じました。

- 40 周年事業において、目的や目標を明確に整理し、教職員や関係者へ共有されていることに大変感銘を受けました。私自身も企業で周年事業を進めていますが、本校の取組から多くの学びを得ることができました。
- 学校関係者評価委員会への参加は、本校の取組を知る機会であるだけでなく、自社の経営や人材育成を見直す貴重な学びの場にもなっています。今後も引き続き、本校の発展と人材育成の取組に期待しています。
- 在校生の娘が関わっている先生方については、非常に信頼を寄せており、日頃から熱心に指導や相談対応をしていただいていることに感謝しています。また、先生方の支援によって学校生活が安定し、落ち着いて学ぶことができていると感じています。

【項目 5】教育環境

- 近年は DX や AI 技術が急速に進展しており、地域の企業や事業者においても活用が求められています。しかしながら、中小企業や個人事業主においては、生産性向上が課題となる一方で、DX 導入にかかるコスト負担や費用対効果の面から、十分な活用が難しい状況もあります。

【項目 6】教育活動の基盤と改善・向上の取組

- 卒業生同士のつながりは非常に重要であると考えています。同窓会事業については大変大きな取組であり、ご苦労も多いと思いますが、一時的な交流にとどまらず、卒業後も継続してつながりを持てるようなネットワークづくりを進めていただきたいと思います。
- 卒業生同士や学校とのつながりが長く続く仕組みづくりに期待しています。
- 卒業生の多くは社会経験を積み、各分野で責任ある立場を担う年代となっています。そのような卒業生同士がつながるネットワークを構築することは、卒業生間の交流だけでなく、在校生の就職支援や地域との連携にもつながるのではないかと考えています。
- 卒業生自身が親世代となっていることから、自身の子どもの進学先として本校を勧めることも考えられます。卒業生同士の横のつながりだけでなく、卒業生とその子どもたちを含めた縦のつながりも今後の学校運営にとって重要な財産になると思います。
- 同窓会事業については、単発のイベントに終わるのではなく、その後も継続的な交流やネットワーク形成につながる取組となることを期待しています。
- 自己点検評価の内容の中で、ボランティア活動への取組が紹介されていましたが、こうした地域活動は学生が社会と関わる貴重な機会であると考えています。
- 単に活動へ参加するだけではなく、地域の方々との交流やイベント運営への参画を通じて、社会課題やプロジェクトが進む過程を学ぶことができます。実際に大人た

ちが協力しながら物事を進める様子を間近で経験することは、将来社会人として働く上でも大きな学びになると思います。

- 今後も継続的にボランティア活動を実施するとともに、新しい取組にも積極的に挑戦し、学生が多様な社会経験を積める機会を広げていただきたいと思います。

以　上

【学校関係者評価委員会からのご意見を受けて】

委員の皆様からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、地域に根差した専門学校として使命感をもって教育活動をすすめてまいります。

今後も引き続き、学修成果の可視化、計画的な指導を行い、学生支援についても学生・父母等との連携を更に強化し、継続的な取り組みを行っていきたいと思います。